

紫外線C波の作用

- 紫外線C波により、血中の酸素分子が励起状態となり、活性酸素を発生する。その主な活性酸素は、一重項酸素(Singlet Oxygen)であり、短時間で強力な抗酸化作用を有する。
一重項酸素は血液中の消去系を刺激し、免疫系を賦活化する。
- さらに、過酸化水素(H_2O_2)を発生させ、細菌、ウイルス、がん細胞を破壊する。
また紫外線の直接的作用によって、殺菌、生物学的毒素を分解する。
- 照射により、極めて少量であるがオゾンも発生する。これにより免疫機能を活性化すると考えられる。
(発生される濃度は、3~5 μ g/mlであり、1回の血液バイオフィトセラピーで発生すると考えられているオゾンの総量は、50mlの採血の場合、おおよそ300~500 μ gである。)
- 紫外線の直接作用により、殺菌、もしくは生物学的毒素を分解する。